

藤井聡太さんの発想力

将棋は盤上の戦いといえます。これは2次元の将棋盤での戦いですね。

通常は、最善手を見つけ何手先まで読むかという2次元発想ですね。

杉本師匠は「三次元の読みを駆使する四次元の棋士」の中で

“藤井の指す将棋は、非常に立体的です。将棋のマス目は縦九×横九ですが、藤井の場合はイメージ的に「高さ」が加わります。

平面ではなく、三マスぐらいの高さがあるように見えます。

「縦九×横九×高さ三」。瞬間的に将棋盤が盤上から数センチ浮いているようにさえ見えます。

もちろん現実的にそんなことはなく、あくまで私の主観的なイメージです。

言葉を換えると、読みが三次元的です。 “

藤井聡太さんは、プロやAI（人工知能）が排除した手も使えないかという三次元的発想が出来る方ですね。（AIは最強の二次元発想者でしょうか。？）

しかし、藤井聡太さんは更に進んだ四次元的発想の方ではないでしょうか。

株式会社ジャパンプより

「四次元的思考とは、物事を俯瞰的（ふかんてき）にとらえ、さらに時間軸も加えた思考法です。本当に求められていることは何か、本質が何なのか、その事象・物事の一部を見るのではなく、全体を把握することで本質を見極めます。

さらに、なぜそうなったのか（過去）、もっと良くしていく（未来）には今どうしたほうがいいのか（現在）、など〈過去・現在・未来〉の時間軸まで思考の幅を広げる思考法です。」と書いておられます。

藤井聡太さんは、四次元的発想を追い求めて行く修験者のようです。

この様な発想ができる「文殊菩薩」を目指しているのではないのでしょうか。